

「就業継続アシストセミナー」第3回 開催レポート

平成 29 年 10 月 21 日（土）13:30～16:00

女性が働きながら、家庭との両立やキャリアアップをしていくには、仲間が必要。

「同じような境遇に置かれた仲間と出会い、繋がり、乗り越えてほしい」という想いから、全4回の働く女性
全力応援プログラム『就業継続アシストセミナー』の第3回目を開催しました！

◆第3回テーマ『働くママも子供もハッピーになる、両立ライフを考える』

講師：堀江敦子さん（スリール株式会社 代表取締役）

－「当事者」になる前に両立体験？－

女性の“子育てと仕事の両立”を促進するために、多方面で活躍されている堀江さん。前職でのワーキングマザーへの冷たい対応に疑問を覚え、将来同じような状況になり得る同期に「私たちの手で少しずつ変えていこう！」と協力を促した経験の中で、女性の意識の低さに衝撃を受けたことが起業のきっかけだそうです。

「会社の中で、子育てに対する意識の低さを見ました。例えば、働くお母さんが17時に帰ると、評価が下げられるのです。これはおかしいなと感じて、まずは会社の中で活動を始めようと思い、同期50人に声を掛けてみたのですが、入社して数年目の同期達にはまだ自分ごとではなく、『わかるけれど、まだ先のごことは考えられない、今の自分のことで頭がいっぱい。』という回答が返ってきて…。ならば、働きながら子育てをするという『当事者』になる前に、子育てと仕事の両立体験をすれば意識が変わるのではないかと思い、起業しました。」

現在、堀江さんが代表を務めるスリール株式会社では「ワーク&ライフ・インターン」という、“仕事と子育て

てを学びたい学生”と”子育てをサポートして欲しい家庭”を繋げることにより、子育て支援、キャリア教育、少子化対策の実現を目指すインターンシッププログラムを展開しています。また、この他に、若手社員から管理職まで、企業の中で子育てとキャリアの両立を図るプログラムもあるそうです。

そんな堀江さんから、「働くママも子供もハッピーになる」方法をワークショップ形式で学びました！



－子育てとキャリアの『両立不安』って？－

戦前の日本は、約 8 割が農家で共働き。でも、当時は、祖父母をはじめ地域の「子育てサポート」は当たり前にあったそうです。そして高度経済成長期には核家族化や専業主婦施策が進み、男性だけで家族 3 人を育てられる給与や雇用（終身雇用）、そして住まい（社宅）の保証が確立。しかし、バブル崩壊後にその形態が一気に崩れ、現在は 7 割が共働きとのこと。

「それでも、頭が専業主婦の時代で止まっている人が多いのです。子育てサポートが受けにくかったり、あるいは子育てについて学ぶ機会が少ない今、女性が不安を抱くのは当たり前なんです。」



スリール株式会社では、働く女性へのアンケートで「仕事と子育て『両立不安白書』」を作成。それによると、出産を経験していない働く女性の92.7%もの人が、「両立不安」を感じているとか！「両立不安」とはスリール株式会社の造語で「仕事と子育ての両立に直面する前から不安を抱えてしまうこと」を言います。

「政府は今『一億総活躍』と言っていますよね。それは2050年頃には、出生率が1.4%から1.26%に下がり、人口の4割が65歳以上になり、労働人口が35%も減少することが統計上の予測となっているからなんです。こんな時代には、子育てとキャリアの両立は急務です。だから安心して働き続けるために必要なことを、私たちは口に出して言っているんです。それが会社のため、国のためになります。大丈夫ですよ。大事なことは発信して周りを巻き込むこと。子育てはチームなんです。楽しく『拡大家族』を作ることが必要なのです！」と、力強く発言をされた堀江さん。



－“私”が描く将来のワクワク♪－

子育てとキャリアの両立を考えるワークのスタートです！まずは、「3年後、自分はどうしたいのか？」を絵で描き、2人1組になって共有するワークです。絵を描くというのは「デザイン・シンキング」と呼ばれ、イメージが具体化されやすかったり、言葉に表せない価値観がわかったりするそう。また、感情が動かされて前向きになれる上に、共有する相手にも伝わりやすいのだそうです。

お互いのビジョンを共有し、相手に説明することでより具体的に将来を想像できたようで、大いに盛り上がりを見せました！



－周りを巻き込む両立ライフ♪－

自分自身の将来のことを想像した後は、「子育てにおける周囲の協力をどう得るか？」を考える時間です！

「3歳までは母親がみていないと発達に影響があると言われる、いわゆる『3歳児神話』がありますが、厚生労働省が行った平成16年からの5年間の追跡調査によると、『母親の保育時間の長さによる、コミュニケーションや運動発達の差は無い』という結論が出ています。ただし、『家族で食事する機会の差によって、コミュニケーションの差は見られた。』という結論も出ました。家庭の保育で大事なものは、『量より質』なんです。」と述べた堀江さん。

“核家族×共働き”は、これまでの歴史的に見ても前代未聞で、これからの時代は職場でも、家庭でも、保育園・育児サポートでも、何でも周りを「楽しく巻き込む」ことが重要になってくるのだそうです！

「子供は『関係性』の中で育ちます。親、兄弟、学校や保育園の先生など、誰にどんな風に関わってもらうのかという視点が大事なんです！」と堀江さんは話します。

子供の成長に合わせて、どういふサポートが必要なのかをきちんと判断して発信できるようになれば、先輩ママやインターネットなどから、必要な情報は見つかるのだとか。『子供にこういうことをして欲しいから、こういうサポートが欲しい！』という思いを明確にして、協力体制を自分の手でデザインしていくことが重要なんです！



♪ 子供のハッピーな成長を考えよう ♪

最後は、“子供”について考えるワークです！

どんな子供に育てたいか、提供したい機会やその理由を書き出していました。そのワークから見えてくるのが「子育てにおいて最も大切にしたい価値観」。例えば、海外留学をさせたい理由が、「英語を勉強する」ではなく、「人との触れ合いを大切にしたい」という場合、「人との触れ合いが大切」という価値観を持っていることがわかります。個々人で自分の価値観を見極めていきました。

「最も大切にしたい価値観は、パートナーの方ともぜひ共有してくださいね。価値観を共有した“子育て

チーム”に任せることができれば、自分にも時間ができていきます。子育てはチームをつくることなので、共有した価値観の中での必要なサポートを受けて、一人で頑張り過ぎないくださいね！」という素敵な言葉で締めくくりました。

ついつい親だけで抱え込んでしまいがちな子育てですが、子供を親だけではなく色々な人と交わせることで、多様な視点を持った人へと成長させられるのかもしれないね♪

『子育てはチーム！』—この言葉を胸に刻んで、子育てをしていきましょう！



■参加者の声

★自分の人生については軸を考えていたが、子供についてはあまり考えてこなかったのが、とても良い機会になりました。

★"周りを巻き込む"というワードをたくさん仰っていたことが印象的でした。もっともっと実践していきたいです。

★まずは自分、ということに対して改めて自信を持てた。子供を大切にするために自分を大切にできるチカラも必要。

★子育ては親の価値観の反映でもあるので、まずは親の価値観（どうしたいか）を明確にさせることが大

切。

★子供について知らなかったことを知れた。もっと会社とかでも当たり前の知識になれば働きやすくなりそう
だと思った。

★「チーム育児」が課題だと認識できていたが、解決のアクションがまず、子育てに関する価値観の整理だ
ったことは目からうろこでした。

★「仕事も家庭も両立したいと言っていいんですよ。」という言葉が印象的でした。

(一部抜粋)